

## 「大塚の富士見坂 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

昨日の記事を読まれた読者の方(大学の先生)から、こんなメールが届いた。

昭和 42 年 (1967 年) ころは、大塚三丁目から護国寺へ富士見坂を下る都電の車内からはほぼ真正面 (ちょっと右寄りだったかもしれません) に見えましたよ。でその頃真正面にビルが建って見えなくなりました。



春日通りの都電(大塚三丁目交差点)

### 「大塚三丁目の都電」 C.Tanaka

現在の地形図では、大塚の富士見坂付近は完全に市街地になっていて、肝心の等高線がほとんど見えない。しかし古い地形図を見ると、建物もまばらで、等高線からしっかりと地形を読み取ることができる。



当時の都電路線図を見ると、本校(大塚二丁目)の周辺にも、多くの系統の都電が走っていたとわかる。

「教育大学」という電停があったのが面白い。富士見坂は路線図の「護国寺電停～大塚三丁目電停間」で、この坂には電車 2 系統とバス 1 系統が通っていたようだ。一つは、江戸川橋から音羽を通過して、護国寺を右折して富士見坂を上り、そのまま千石方面へ直進する系統。現在の早稲田～上野松坂屋のバスがその名残だろう。もう一つは池袋方面から来て富士見坂を上り、大塚三丁目交差点で右折して、伝通院方面へ行く系統。現在の池袋駅～文京区役所のバスがその名残だろう。

遠くに富士山が見える都内の坂を、黄色い都電が上り下りしている姿は、さぞすばらしい光景だったに違いない。



上図は当方所蔵の明治 14 年の地形図である。「陸軍病馬厩分厩」と表示のある台地が、現在の「お茶の水女子大学」である。護国寺の門前(現在の音羽通り)と大塚仲町(現在の大塚三丁目)付近には民家や恐らく商店が多いが、それ以外は畑や桑畑ばかりで、のどかな田園風景だったにちがいない。赤く塗ったところが「富士見坂」であるが、等高線からもゆるい坂道とわかる。きっと北斎の描いた「宮益坂からの富士」に近い風景が見られたのだろう。